

問題 1 次の流れ図に関する記述を読み，設問に答えよ。

問題解決の手順を図で表現したものが流れ図である。流れ図で使用する記号には，次のようなものがある。

処理は長方形で表し，主に代入である。矢印の右側の値や式の結果が，左側の変数に格納される(図 1)。

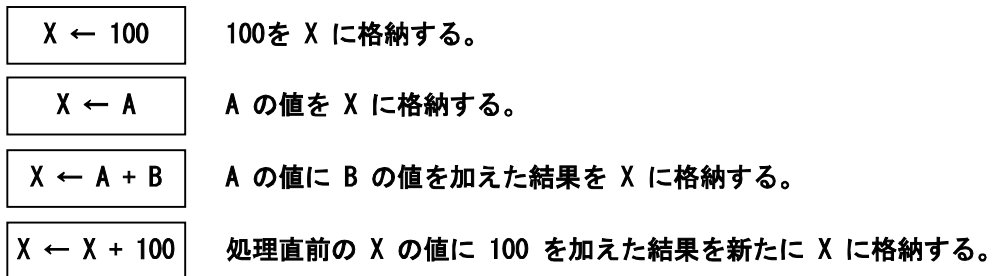


図 1 処理の様々な例

判断はひし形で表し，条件を満たす(YES)か満たさない(NO)で，それぞれの線(経路)へ分岐する(図 2)。

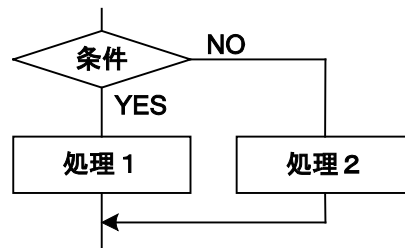


図 2 判断の例

流れ図は，上から下へ線をたどりながら，処理や判断を実行する。

<設問> 次の釣り銭の支払いに関する記述中の に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。ただし，除算の小数点以下は切り捨てられる。

流れ図「釣り銭 10」(図 3) は，商品のおつりとして 100 円未満の金額を受け取り，10 円玉および 50 円玉の枚数を求め，10 円未満の余りを新たな金額とするプログラムである。

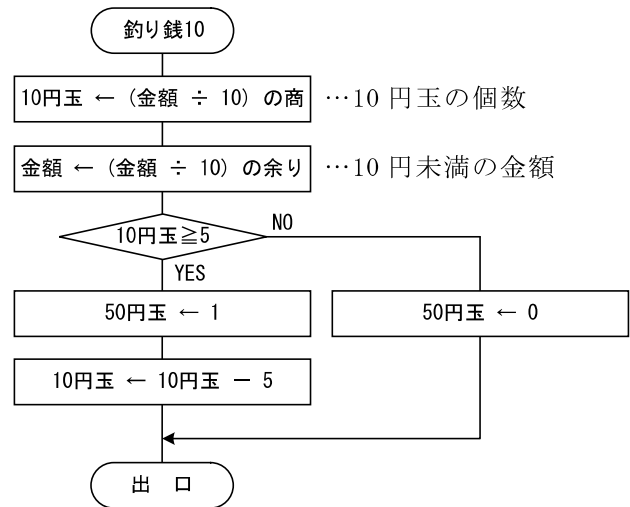


図3 釣り銭10の流れ図

同様に、商品のおつりとして1000円未満の金額を受け取り、100円玉および500円玉の枚数を求め、100円未満の余りを新たな金額とするプログラム「釣り銭100」(図4)と、おつりとして10円未満の金額を受け取り、1円玉および5円玉の枚数を求めるプログラム「釣り銭1」(図5)は、次のようになる。

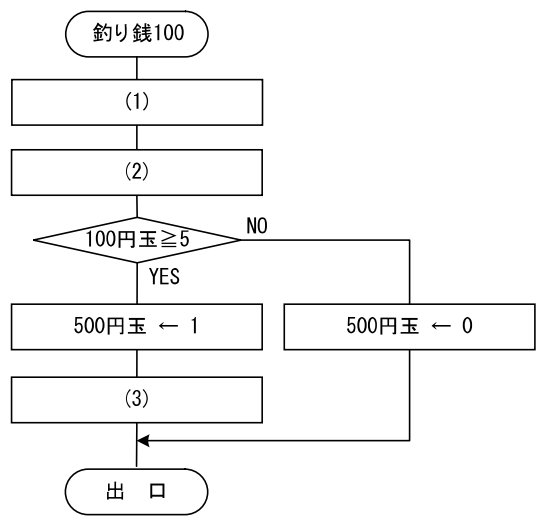


図4 釣り銭100の流れ図

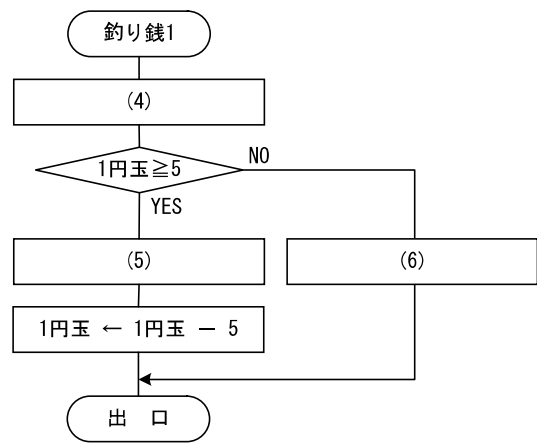


図5 釣り銭1の流れ図

おつりとして1000円未満の金額を受け取り、三つのプログラム「釣り銭1」「釣り銭10」「釣り銭100」を使って、1円玉から500円玉までのすべての金種枚数を求めるには、プログラムを (7) の順に実行すればよい。

(1) , (2) の解答群

ア. 100 円玉 \leftarrow (金額 $\div 10$) の商
ウ. 金額 \leftarrow (金額 $\div 10$) の余り

イ. 100 円玉 \leftarrow (金額 $\div 100$) の商
エ. 金額 \leftarrow (金額 $\div 100$) の余り

(3) の解答群

ア. 1 円玉 \leftarrow 1 円玉 $- 5$
ウ. 100 円玉 \leftarrow 100 円玉 $- 5$

イ. 10 円玉 \leftarrow 10 円玉 $- 5$

(4) の解答群

ア. 1 円玉 \leftarrow 金額
ウ. 1 円玉 \leftarrow (金額 $\div 100$) の商

イ. 1 円玉 \leftarrow (金額 $\div 10$) の商

(5) , (6) の解答群

ア. 5 円玉 $\leftarrow 0$
ウ. 50 円玉 $\leftarrow 0$

イ. 5 円玉 $\leftarrow 1$
エ. 50 円玉 $\leftarrow 1$

(7) の解答群

ア. 「釣り銭 1」, 「釣り銭 10」, 「釣り銭 100」
イ. 「釣り銭 10」, 「釣り銭 100」, 「釣り銭 1」
ウ. 「釣り銭 100」, 「釣り銭 10」, 「釣り銭 1」